



使えて便利といふけれど

合成洗剤から石けんへ

最近、全国各地で、合成洗剤から粉石けんに切り替えようという運動が盛り上がっています。`使いやすいと便利、ということで、台所用・洗濯用の洗剤として家庭で使われている合成洗剤。しかし、合成洗剤は環境汚染や人体に悪影響を及ぼすともいわれています。

市消費者運動連絡会は、洗剤についての講演会や市役所2階に石けん相談コーナーを設け、合成洗剤を粉石けんに切り替えるよう呼びかけています。そこで、合成洗剤による影響、また石けんとの違いについて考えてみましょう。

便利さよりも安全性

洗剤には、石けんと合成洗剤の2種類があります。

石けんの歴史は古く、今からやく2,000年も前に、動物の脂と灰を混ぜて使われていました。

合成洗剤は、ドイツが第一次世界大戦のとき、石炭から造ったのがはじまりです。その後、アメリカが、第二次世界大戦のとき石油から合成洗剤を造りました。

日本でも、昭和36年ごろから、電気洗濯機の普及とともに、一般家庭でも急激に消費量が増え、現在、洗剤全体の85%を占め、完全に石けんを上回っています。

に、カセイソーダーを加えて造ります。

合成洗剤の場合は、石油を原料として、数種類の化学物質を加えて造ります。そこで問題になるのは、その中の主成分である、汚れを落とす合成界面活性剤とそれを助けるリンです。

合成界面活性剤が、家庭排水とし

手あれや

おむつかぶれが

先にも述べたように、石けんと合成洗剤の違いは、原料にあります。

現在、一般家庭で使われている石けんは、動・植物性の油脂を主原料



町内会連合会役員決まる



会長に選ばれた加藤源治さん

今年度の富士市町内会連合会の役員が決まりました。

会長、副会長、常任理事は次の人たちです。

- ・会長 加藤源治 (駅南地区)
- ・副会長 岸本六三郎 (吉原地区)
- " 村松芳太郎 (今泉地区)
- " 杉浦信雄 (駅北2地区)
- " 大村 明 (鷹岡地区)
- ・常任理事 望月耕一 (伝法地区)

- 大塚禎三 (広見地区) 佐野茂雄 (富士見台地区)
- 矢野正照 (元吉原地区) 増田久雄 (須津地区)
- 渡辺真吾 (浮島地区) 神尾信義 (吉永地区)
- 秋山只雄 (原田地区) 藤田久幸 (大淵地区)
- 板倉茂三郎 (駅北1地区) 木内正己 (田子浦地区)
- 岡田義次 (岩松地区) 渡辺春男 (丘地区)

て多量に下水処理場に流された場合、汚水の浄化作用を極端ににぶらせます。

ご承知のように、下水処理場は、流れ込んだ汚水を微生物に食べさせて浄化します。

しかし、合成界面活性剤が多量に流れ込むと、微生物の繁殖が弱まり浄化活動が低下してしまいます。

また、手あれや湿疹などを起こし、赤ちゃんのオムツかぶれの原因にもなるといわれています。

もう一方のリンは、チッソ・カリと共に植物の三大栄養素の一つです。

このリンは、現在の下水処理施設では完全に除去されず、その多くが河川に流されます。

このことは、全国どこの処理施設でも問題点となっています。

赤潮発生の原因にも

処理場でリンを除去するには、現在の2次処理法から3次処理法に変えなければならず、ほう大な費用がかかります。

河川や海洋に流されたリンは、河川では富栄養化による「藻」の異常発生、海洋ではプランクトンが大量に繁殖し、赤潮公害の原因になります。

滋賀県では、昨年10月に琵琶湖に流れ込むチッソ・リンを防ぐため「琵琶湖の富栄養化条例」を制定し湖を環境汚染から守ろうと、積極的にこの運動に取り組んでいます。

このような動きは、諏訪湖をかかえる長野県にも広がっています。

歯の衛生週間

6月4日(水)から10日(火)までは歯の衛生週間です。

週間中に歯科医師会館(長者町)で、次の行事を行います。

- ・7日 市内小・中学校ポスター展
- ・8日 10:00~
「正しい歯みがき」の講演会
" 13:00~16:00
むし歯予防の無料相談
- ・問合せは 歯科医師会館 ☎53-5555

富士見台処理場に スカムが発生

市内の富士見台下水処理場でもアワ状のスカムと呼ばれる浮遊物質が多量に発生しています。

この処理場は、団地に住む1,700世帯(5,000人)の家庭排水1日平均2,000tを処理しています。

アワ状のスカムは、汚水処理の効率を悪くするばかりか、これを処理するための費用もかかるため、予期せぬやっかい物とされています。

発生原因は現在、調査中ですが他市の例から見ても合成洗剤に何らかの関係があると思われる。



【富士見台下水処理場】

市庁舎2階に 石けん相談コーナー

それでは実際に合成洗剤が一般家庭でどれだけ使われているのでしょうか。

市連合婦人会が、市内の主婦957人を対象に行ったアンケート調査をみると、90%の人が合成洗剤、残り10%が石けんを使っています。

市消費者運動連絡会は、「粉石け

やはり健康第一です

山本清子さん

(35歳・南町)



5年くらい前に合成洗剤から粉石けんに切りかえています。

合成洗剤を使っていたときは手あれや、指紋がとれたりしたこともありましたが、現在はありません。

生協の会合などで、合成洗剤の怖さを知り、かえてよかったです。

主婦としては、便利さも考えますが、やはり家族の健康が第一ではないでしょうか。

んは手に入りにくいという声を聞きますが、スーパーなどにも相当でまわってきました。これからは、石けん製品を店頭で置くよう呼びかけていきます」と話していました。

また、同会は市庁舎2階の市民生活課前に、石けん相談コーナーを設け、毎週火曜日に相談を受けています。

自分たちの生命、環境を守るためにも、これからは、便利さよりも安全性を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

表紙のことは



【大正十三年富士川橋の開通式】

そのむかし、渡し舟で往来した富士川は、日本三大急流の1つに数えられた天下の急流。

大正13年、総工費85万円をかけ、日本の大動脈、東海道国道1号線上に架けられた富士川橋。

この橋を架け替えようと、5月16日関係2市7町(静岡、山梨)で促進期成同盟会が発足したが、まだしばらくは、老橋に頑張ってもらわなければならない。